

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	合理的配慮の全職員共有、授業参加の工夫、巡回相談の活用
【学校、学年】	高等学校 【 2 】年
【状況、様子 等】	<p>○生徒Cの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由があり、常時電動車いすを使用している。 ・手指等に若干のまひがあり、挙手することは難しい。 ・椅子からの立ち上がりは、介助があれば可能である。 ・トイレは移乗の介助があれば可能である。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<p>○合理的配慮 ※年度始めに、以下のことを、職員研修を通して全職員で共通理解をした。</p> <p>①学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事は、どのような形で参加するか、本生徒と学校と話し合ったうえで決めた。 ・移動やトイレの際には、特別支援教育支援員（以下、支援員）がサポートした。 ・授業参加で検討が必要なことに関しては、特別支援教育コーディネーターや担任が窓口となり、検討をした。 ・医師の指示により、側弯防止や休息のための場所、時間を確保した。 <p>②授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挙手の際には、棒を使用し、教師に伝わるようにした。 ・教科書等の出し入れは、支援員がサポートした。 ・実技教科に関しては、支援員のサポートを受け、可能な限り参加した。 ・体育は見学やレポート作成等を行った。 ・座席位置の調整や本生徒用の机などの整備を行った。 <p>○巡回相談での支援</p> <p>①ケース会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時に、担当職員が、主治医から病状説明を受けた。 ・特別支援学校のコーディネーターは、基本的支援や環境整備についての指導助言を行い、継続的に支援の状況を確認した。 <p>②進路と福祉サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学に向けて、進学先でのサポートや福祉サービス利用について、特別支援学校のコーディネーターから説明を行った。
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・入学段階で、校内での合理的配慮を教職員全員で共通理解をしたことで、本生徒のニーズに合った学校生活を送ることができた。 ・巡回相談やケース会議を定期的で開催したことで、本生徒の病状に合わせた支援の修正や、卒業後の生活に向けた取組の検討を行うことができた。